

大災害が起きた時にやるべき行動・ やってはいけない行動

やるべき行動

- ・とにかく、自らの身の安全を確保する ⇒ 怪我により行動に支障ないか。
- ・一緒に生活する家族の安全を確認する ⇒ お互い怪我や行動に支障ないか。
- ・家の内外を目視する ⇒ 夜間は、懐中電灯使用（室内のライターは、絶対に使用禁止） ⇒ 火の始末が可能であれば初期消火 ⇒ 家具の転倒や電気器具類の落下により避難に障害がないか確認し、避難路を確保 ⇒ 近隣に火災が発生していないか確認 ⇒ 近隣にケガ人がいないか、大声で確認し合う。
- ・上記行動と並行して、正しい情報を収集する ⇒ 防災東松山の放送や消防署など行政からの情報を得る = デマに惑わされない。
- ・正しい情報を得ながら、避難所へ避難するか否か判断する ⇒ 避難する際は非常持ち出し袋の中身の確認し、玄関ドア等に避難先を明記する ⇒ 避難する際は、ブレーカーを下げる、ガスの元栓を締める。
- ・安否確認システムを利用して、自らの安否情報を家族などに連絡する。

やってはいけない行動

- ・ガラスの破片、壊れた家具等の散乱により怪我の可能性あるのに、部屋の中を素足で歩く ⇒ 対応策・・・素足は危険、夜間での対応も考え、常に寝室の枕元に運動靴を用意しておく。
- ・ガス漏れにより引火して爆発する危険があるのにライターやろうそくを使う。 ⇒ 対応策・・・夜間対策=ライト（懐中電灯）を使用し、ライターやろうそくは絶対に使用しない。
- ・下がったブレーカーやスイッチを周りを確認せずにあげたり、入れたりする ⇒ 対応策・・・火災や爆発の危険があるため、被害がある場合は絶対に行わない。
- ・不安から電話を掛けまくる。 ⇒ 対応策・・・電話回線がパンクしてしまうので不要不急の電話はしない。
- ・避難するのに、近隣に声を掛けない、救出活動を単独で行う。 ⇒ 対応策・・・お互いに声を掛け合い、救出は複数人で行い二次災害を防ぐようにする。